

医療機器の製造販売に向け、許認可取得

医療分野の本格参入に向け、 着々と準備を進めています

既にご案内の通り、当社では昨年10月よりメディカル新規事業準備室を設置し「医療分野」での事業展開を準備しており、お客様、投資家、アナリスト、メディアの方々から大きな期待を寄せていただいています。すべての情報を開示できる段階ではありませんが、このニュースレターでも、随時、進捗状況をお知らせしていきたいと存じます。

医療機器製造業の登録ならびに 第二種医療機器製造販売業 許可を取得

2019年からスタートした中期経営計画「NITTO SEIKO Mission “G”」では、新たな事業領域の開拓や拡充を重要戦略に掲げ、M&Aの実施やグループ企業、共同開発企業との技術、ノウハウの有機的な結合によるシナジーの追求を進めています。この事業領域開拓・拡充のターゲットのひとつが医療分野です。

これまで当社日東精工のファスナー・冷間圧造製品が医療用途に採用されたり、関連子会社で、医薬品の金型を製造するなどの実績があり、当社事業の3つの柱、ファスナー事業、産機事業、制御システム事業に加え、いずれ4番目の柱に育つことを意図として、改めて医療分野への参入を図るものです。

昨年10月に執行役員 石原雅和を室長にメディカル新規事業準備室を設置。国内向け医療機器の製造と販売体制の確立、開発製品及び販売における各種認可の取得、販路拡大に向けたマーケティング活動及び販売促進活動の準備を進めてきましたが、本年1月10日に、京都府から「第二種医療

機器製造販売業許可」と「医療機器製造業登録」を受け、まずは新たな一歩を踏み出すことができました（4月からはメディカル新規事業準備室を事業部に変更予定です）。

①「医療機器製造業登録」

許認可の種類	医療機器製造業
製造所の名称	日東精工株式会社
製造所の所在地	京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地
登録番号	26BZ200107

②「第二種医療機器製造販売業許可」

許認可の種類	第二種医療機器製造販売業
主たる機能を有する事務所の名称	日東精工株式会社
主たる機能を有する事務所の所在地	京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地
許可番号	26B2X10036

医療機器は扱える区分が詳細に区切られており、今回取得した第二種医療機器製造販売業では、認証等が必要になりますが、一般には電子式血圧計や家庭用電気治療器、また補聴器などが製造可能です。当社で開発中の具体的製品については改めて発表いたします

新しい分野への挑戦が 既存事業へのシナジーを生む

社は「我らの信条」に〈感謝の心を仕事に活かして社会に貢献する〉とあるように、当社では、自分たちの技術や製品が人の役に立ち、安全安心に貢献することを願っています。ファスナー、産機、制御システムの3事業で生み出す製品も、どれもが直接的、間接的に人の暮らしを支え社会に貢献しているものですが、医療分野への新たな参入は、さらに一歩踏み込んで、人の命を守り健康に貢献する度合いが増えるものと考えています。

もちろん、人の命や健康に直結する医療機器だけに、よりクリーンであること、より安全であること、より操作性にすぐれていること、より堅牢であること、よりバックアップがしっかり

していることというように、一般機器よりも越えるべきハードルは増え、より高くなります。

しかし、これらを丁寧にクリアしていくことで得られる情報や経験は、既存の3事業あるいは国内外の当社グループ各社で共有できる資産となり、今後多くのシナジーを生み出すことが期待されます。「新たなイノベーションの創出」や「お客様満足度120%達成」へとつなげていくことができ、既存事業やグループ各社でも新しい発想の新製品が誕生することを願っています。



クリーンルームなどを備えた医療機器専用工場を新設（写真左）、研究開発事務所も同建屋に新設（写真右）。医療機器の早期開発に加え、基礎開発や付加価値製品をよりスピーディに生み出すことを目的として整備

特例子会社として「日東精工SWIMMY」も本格稼働

「日東精工SWIMMY」は、「障がい者が喜びを感じて一歩一歩成長していく職場」「障がい者が安心して能力を発揮できる環境」を目指しています。日東精工本社敷地内にて本年1月11日より操業開始、17日には福知山公共職業安定所長から特例子会社の認定を受けました。

「日東精工SWIMMY」の社名は、世界的に有名なレオ・レオニの絵本『SWIMMY（スイミー）』から命名したものです。絵本は小さな魚・スイミーの冒険ストーリー。たくさんいる仲間のなかでスイミーだけが色が違い、少し異質ですが、じつは彼にしかできない重要な役割があって、そのことで皆が一丸となって危険を回避することができるという内容です。「SWIMMY」という言葉に、社員一人ひとり



の知恵や発想を最大限に引き出しながら、活発なコミュニケーションを通じてそれらを組み合わせ、創造的な成果へと結びつける。1+1=2ではなく、1+1を3にも4にもしたいという想いを込めています。



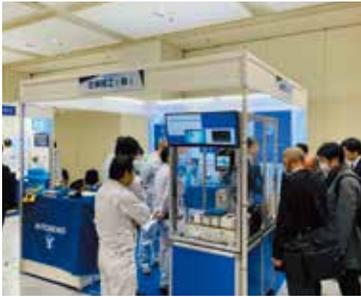
「日東精工SWIMMY」は「感謝の心」「個性の尊重」「明るい職場」を価値観とし、お客様から信頼される会社を目指し、感謝の心で社会に貢献することを使命感として、精進努力してまいります。

※特例子会社とは、障害者の雇用の促進等に関する法律第44条第12項の規定に基づき認定され障害者雇用率において親会社に雇用されているものとみなすことができるもの。「日東精工SWIMMY」では文書電子化、データ入力作業、印刷業務、社内配送業務、施設・設備の清掃などを請けています

「ひろしまAI・IoT進化型ロボット展示会2020」に出展しました

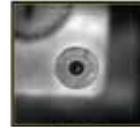
2月5日から6日まで広島県立広島産業会館で「ひろしまAI・IoT進化型ロボット展示会2020」が開催されました。

「AI」と「IoT」の基盤技術と、これら基盤技術を背景にインテリジェンス化された「進化型ロボット」が一堂に会する展示会で、当社 日東精工からは「位置補正カメラ搭載ねじ締めロボット（締付位置の精度が出しづらいうワークもカメラで補正し、締付品質の向上を実現）」や、「カラーレスタイト（鉄カラーとインサートナットを廃止可能とするねじの新製品）」、そして各種「セルフタッピンねじ」を紹介し、好評を博しました。



★「位置補正カメラ搭載ねじ締めロボット」

ねじ穴位置が出づらいというお客様のお困りの声に応え、当社独自のYθ型ねじ締めロボットに位置補正カメラを搭載し、締付品質の向上を実現。位置ズレの補正はもちろんのこと、1～3ポイントの位置情報から全ポイントの位置補正やタイミングデータの自動補正など、最適なねじ締めを提案するものです。



撮影画像



★安川電機と共同開発

この広島の展示会には(株)安川電機様も出展されていました。前号2月号の本紙でもご紹介しましたが、当社、日東精工は(株)安川電機様とねじ締めロボットを共同開発中です。2019年12月に東京ビックサイトで開催された「2019国際ロボット展」では参考出展されていました。



「健康優良企業認定証『銀』」を取得。健康推進企業を目指します

企業全体で健康づくりに取り組むことを宣言し、一定の成果を上げた場合に「健康優良企業」として認定される制度があります。日東精工はこの度、健康保険組合連合会から「健康優良企業認定証 銀」を取得しました。当社では、中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」の戦略テーマにも「健康経営」の概念を盛り込み、健診後の再検査や特定保健指導などの取り組みを強化していますが、今後は疾病予防や安全衛生への取り組みなどの基準を満たすことで受けられる『金』の認定取得を目指してまいります。



人材は事業活動の原動力。健康推進企業を目指し、従業員の心と体の健康を高めていくと同時に、意識の向上も促し、心身の健康によりもたらされる生産性の向上を図ってまいります。

危険場所でのバッチ作業に特化した「防爆バッチカウンタPX2」を新発売

当社制御システム事業部では各種流量計を製造販売していますが、この度、関連製品である「防爆バッチカウンタPX2」を新規開発しました（4月1日から販売開始）。国際整合防爆指針Ex2015に適合し、危険場所において安全に定量計測が可能な定量バッチ制御装置で、流量計及びバルブとの組み合わせで、流体を定量計測。内部CPUには多くの演算機能を搭載し、流量計から受信したパルス信号に流量計係数を乗算した積算表示カウントや、バルブやポンプの制御による正確なプロセス管理が可能となるものです。危険場所を有する工場や事業所、プラント設備業界などに向けて販売してまいります。





「ほめて伸ばす」の落とし穴!?

ケ

「ケ」の切れない非行少年たち』(宮口幸治著)

という本がベストセラーになつていて、発行後半年あまりで40万部を突破しています。

その内容を簡単に記すと、
——非行少年を凶暴で手に負えないイメージしがちだけれど、じつはそうではない。ふだんはおとなしい静かな子が多く、自分はやさしい性格だと思つている子さえもいる。間違いを犯す背後にあるのは「認知のゆがみ」だと指摘しています。

計算が苦手、漢字が読めない。注意をされると頷くのでいい子のように見えるけれど、実際はその場をやり過ぎために頷くだけで、なにを注意されているかがわからない。反省ができず、葛藤すらできない子どもがいるのです。
本来はそういう子どもこそ、しっかりとフォロワーが必要なのにそれが十分にされずに、誤解されたまま放つて置かれ、心や能力のケアをさ

れないままに、結果として犯罪を繰り返している——。

本のなかで紹介されている事例は(やや特殊な世界)のことではあるのですが、ふだんの生活やビジネスの世界に落とし込んで、感じ入ることがたくさんありました。だからこそ多くの方に読まれているでしょう。

そして本のなかで「ほめて伸ばす」の落とし穴について記されていました。

人は叱られるより、ほめられるほうが嬉しいもの。長所を見つけ、そこをほめる、鍛える、磨くことは大事です。やる気を引き出すことにもつながりますね。しかし、かといって、本来、身につけなければならぬ社会性やルール基本をないがしろにしているというものではありません。少しずつの歩みでも、苦手できないことを訓練して克服することが大事。「ほめる」だけでは、じつは根本的解決を見いだせないのです。

案外、誤解し混同しがちですが「ほめる」ことは「短所に目をつぶる、甘やかす」ととは違うのです。これは家庭での子育てでも、会社の人材教育についても同じことがいえるでしょう。「叱る、注意する」のは「ほめる」よりも難しいですが、必要なものです。

まずは各々が自身を振り返つて、たとえば「時間にルーズ」「うっかりミスが多い」「挨拶ができない」「すぐに感

情的になる」「いわなくてもいいことをつい口にしてしまう」など自分が苦手・欠点、短所と思えることに対し「ほかを伸ばせばいい、ここは目をつぶってもいい」「自分はどうだから仕方がない」などと改善を怠っていないかを再点検してみましょう。

そして、一人ひとりを大切にして、上下関係に関わらず、良いところは認め尊重するだけでなく、ときには厳しいこともいえるような職場であれどと願っています。

連載⑳

あやべ ちょっと寄り道

みんなで安心をつくる社会 「あやべ見守りカー」

日東精工が本社をおく綾部市で、下のようなステッカーを貼った車と出会うかもしれません! 「ドライブレコーダー」を搭載する自家用車が増えています。それを活用して、より安全、安心の意識を高めようという、市民参加の取り組みです。

特別なことをするのではなく、専用マグネットステッカーを車に貼って、普段の生活の中で綾部市内を走行することで、まちの見守りにつなげ、犯罪やあおり運転の抑止、事件、事故の解決を導こうというものです。



当社については、公用車11台があやべ見守りカーとして登録しています